

藤家原子力委員長の海外出張報告について

平成 15 年 9 月 2 日
内閣府原子力担当

1．出張先

ロシア、カザフスタン

2．目的

日・カザフスタン原子力協力に関する意見交換の会議に出席し、わが国の原子力利用についての講演を行うとともに、カザフスタンの原子力関係者と、カザフスタンとの原子力協力についての意見交換を行う。また、ロシアの原子力関係者と、ロシアとの原子力協力についての意見交換を行う。

3．日程

(1) 日 程：8 月 21 日 (木) ～ 31 日 (日)

8 月 22 日 (金) ロシア原子力関係者との意見交換

ソローニン原子力省第一次官との会談

ベリホフ クルチャトフ研究所総裁との会談

8 月 24 日 (日) カザフスタン国立原子力センター (N N C) との意見交換

8 月 25 日 (月) カザフスタン国立原子力センター (N N C) との意見交換

8 月 26 日 (火) 原爆実験場、I G R (黒鉛減速パルス出力炉) 視察

8 月 27 日 (水) 日・カザフスタン原子力協力に関する意見交換

8 月 28 日 (木) 日・カザフスタン原子力協力に関する意見交換

8 月 29 日 (金) N N C アルマトイ研究炉視察

3．結果概要

(1) ソローニン原子力省第一次官との会談 (8 月 22 日)

ロシア原子力省を訪問し、ソローニン第一次官と会談を以下のとおり行った。

- ・日本側より、日本のプルトニウム利用の基本的な考え方を紹介し、核不拡散に対する日露の考え方を互いに再確認した。
- ・ロシア側より、軽水炉をはじめとする原子力への課題は日本と共通しており、今後、産業分野を含む包括的な協力への発展に期待が示されるとともに、そのためには原子力の平和利用に関する政府間協定が必要との認識を

示した。

- ・解体核 Pu 処理問題に関して、ロシア側より、年に 2 トンの Pu を MOX 燃料として VVER 4 ～ 5 基で燃焼させることを基本的な骨格としながら、BN-600 をハイブリッド炉心化して燃焼させる可能性があることが示された。
- ・日露の協力関係を発展させるために、今後も引き続き、意見交換を重ねていくことが重要であるという共通認識であった。

(2) ベリホフ クルチャトフ研究所総裁との会談 (8 月 22 日)

クルチャトフ研究所を訪問し、ベリホフ研究所総裁と以下のとおり、会談を行った。

- ・ベリホフ総裁から、ITER のサイト選定については、日本が有利な立場にあると考えていること、次回の国際会議で進展することを希望する発言があった。
- ・核解体 Pu 処分については、ロシアの研究所長会議では BN-600、BN-800 を含めた全ての炉で処理することが望ましいという結論である旨の発言があった。
- ・核燃料サイクルへの国際協力の枠組みについて、意見交換を行った。

(3) カザフスタン国立原子力センター(NNC)との意見交換 (8 月 24 日～25 日)

クルチャトフ市の NNC を訪問し、ツクバツーリン総裁他と以下のとおり、意見交換を行った。

- ・冒頭、ムハターノフ クルチャトフ市長より、日本とカザフスタンの協力関係の発展への期待が述べられた。
- ・ツクバツーリン NNC 総裁より、NNC の研究概要として、BN-350 の解体への課題、トカマク型の材料研究炉の建設計画、軽水炉の新規建設計画などの説明があった。
- ・バシリエフ副総裁より、日本・カザフスタンの共同プロジェクトである COTELS、EAGLE プロジェクトの研究成果及び今後の計画について紹介があった。その後、EAGLE 試験の目的、工程、残された課題について意見交換を行い、試験の目的や結果の使い方について細部に亘り再確認すると共に、全体工程に影響するような課題は、これまでの努力によってほぼ解決されたことを確認した。また、EAGLE 試験の実施に当たる組織、体制について具体的に確認すると共に、本試験の遂行に際して遭遇した障害事例について説明を受け、今後の展開に際し、これらが障害とならないよう措置されていることを確認した。両者が世界の最先端を行く試験計画の成功に向け、一層連携協力を強めていくことを確認した。

- ・日本側から、相澤氏（JNC 理事）、佐藤氏（JNC）より「日本の高速炉開発の現況」について、神谷氏（広島大学原爆放射線医科学研究所長）より「広島・長崎での原爆被爆者調査」について、久住氏（（財）放射線影響協会）より「セミパラチンスク医療支援に向けた日本の協力」についてそれぞれ講演し、意見交換を行った。

（４）日・カザフスタン原子力協力に関する意見交換（８月２７日～２８日）

アルマトイ市において、シュコルニク カザフスタンエネルギー鉱物資源大臣、ザンチキン カザフスタン原子力委員会委員長、タキバエフ アカデミー会員他と以下のとおり意見交換を行った。２８日は角崎特命全権大使が参加した。

- ・藤家委員長より、日本の原子力開発利用の現状について講演し、「日本のプルトニウム利用の基本的な考え方」や「核燃料サイクルについて」について紹介した。カザフスタン側よりシコルニック大臣からカザフスタンのエネルギー産業発展計画、原子力開発の現状について講演を行った。その後、エネルギー政策、原子力政策全般に関して、互いに質疑応答、意見交換を行った。
- ・軽水炉、高速炉に係る研究開発について、カザフスタン側からツクバツリー NNC 総裁、日本側から平井氏（原子力発電㈱常務取締役）、相澤氏（JNC 理事）が講演し、意見交換を行った。
- ・核兵器廃絶、核不拡散について、日本側から平岡氏（元広島市長）が「核廃絶に向けた広島への努力」と題して講演し、カザフスタン側からはザンチキン原子力委員会委員長が講演し、意見交換を行った。
- ・村上氏（東海村村長）より、「原子力発祥の地東海村」と題して講演を行った。
- ・被爆による医学、遺伝的影響や被爆医療について、日本側から青木氏（（財）放射線影響協会理事長）が「セミパラチンスク周辺の被爆影響に関する日本・カザフスタンの協力調査」と題して講演し、カザフスタン側からはカユポーバ上院議員が講演し、意見交換を行った。

以 上